進路ジャーナル

第 107 号

平成30年４月25日

編集発行

磐城桜が丘高等学校

進路指導部

印刷 ㈱ネクスト情報はましん

玉磨かざれば光なし！

～卒業生奮闘す、国公立大53名～

平成二十九年度 卒業生 進路状況

進路指導部

平成二十九年度卒業生の国公立大学合格者数は、国立大学二四名、公立大学一九名の計五三名であった。七クラスになったが、昨年を上回る実績となった。主な要因は、出願先の検討を丁寧に慎重にしたこと、上位者が指定校推薦に流れなかったこと、国公立への出願者数が増加したことなどがあげられる。本校生に人気のある近県国公立大は、地元福島大学に五名、茨城大学八名、山形大学七名、秋田大一名、山梨大一名、群馬大一名と合格者が増加した。一方、福島県立医大の看護学部一名、会津大学への合格は推薦で一名と思わしくなかった。また、上位者は筑波大一名、埼玉大二名、信州大一名、新潟大二名、宮教大二名、横浜市立大一名、首都大一名などとなっている。

国公立の推薦・AO入試に関しては、受験者三九名に対して一六名が合格した。地元福島大学、会津大学や県立医大、近隣の国公立にもっと出願していれば合格者が増加していたのではないかと思われる。また、一般入試受験者においては前期八三名（二十八年度七五名、二十七年度九九名、二十六年度一〇五名）、中期八名、後期二一名であった。また、センター試験での五教科受験者が一〇七名など、国公立受験に拘る生徒が減ってきている事実も否めない。しかしながら、今年度も後期での合格者が六名おり、最後まで国公に拘って受験することの大切さは証明されている。さらに、受験の仕方や出願指導は早期から（低学年のうちから）段階的に行うべきであることの大切さが証明された年となった。推薦・AO入試に向いているのか、センター試験の結果を受けて、遠方の国公立大学進学も視野に入れるのか、ケーススタディやセンター試験以前の出願検討会を有効に活用し、二者、三者面談で様々な可能性を提案して行くことが合格者の増加に繋がると思われる。

私立大学へは、推薦・一般を合わせて延べ三四七名が合格をした。内訳は、指定校推薦が二〇名、公募推薦が一五名、AO・特別入試が一三名、一般入試が二九九名であった。

難関私立大学は、久しぶりに早稲田大学に現役で一名が合格した。他には、明治大学一名程度であり、難関私立大学に一般で合格するのはかなり厳しいものとなった。日東駒専は一般合格者三一名と昨年同様少なかった。近年、日東駒専が本校生の滑り止めになり得ていない。

私立大学指定校推薦では二〇名が合格したが、昨年度の四〇名に比べると半数で、一般試験で最後まで頑張ろうとする意気込みが見られた。学年の成績上位者で国公立大学を狙える層の生徒の志願が少なかったことが、国公立大学合格者の増加に繋がったと思われる。また、最近は大学側からの指定校条件が厳しくなってきており（英検準一級または二級取得必須など）指定校枠を活用することの是非については、ますます学校全体での議論が必要であろう。学習院大に関しては、指定校一名、公募二名計三名の合格者を出すなど健闘した。

なお、今年度入試の特徴としては、文部科学省の「大規模大学の定員超過に対する補助金不交付の措置の厳格化」による影響が大きかった。従来は入学辞退者が出ることを見越して多めに合格者を出していた大学が合格者を絞り込んだ為、例年より合格者の数が伸びず、その煽りを真面に受けた感がある。私立大学出願に関しては、もっと現実的な（合格可能性の高い）出願指導も必要になってくると思われる。

次年度の課題であるが、クラス減の影響にかかわらず、本校においては国公立大への合格者を増やしていく努力が必要である。国公立に拘らなくても良いのではという意見は確かにあるが、残念ながら地方公立の「進学校」としての評価指標は国公立大の合格者数に勝るものはないのが現状である。本校に入学する生徒の九〇%近くが国公立大学への進学を目指しているが、現実問題として当面の目標である八〇名を超えることができすにいる。一定以上の「数」を生み出し続けることは地域から与えられた本校の責務であり、年間計画や教育課程はこうした観点をもとに再構築されてしかるべきである。

大学入試改革の最中、教育現場では基礎的な知識習得にとどまらず、得た知識を活用する力や創造性、更には生涯を通じて学び続ける為の基礎的・汎用的な能力習得の必要性が様々な形で提唱されている。こうした時代の変化に伴い、「教科学力」だけにとどまらない「新しい学力」に改めて注目が集まっている。推薦入試の合格率を向上させるには、キャリア教育の視点が必要不可欠である。さらに生徒の自己表現能力の育成も重要である。一年次から総合的な学習の時間などを有効に活用して、計画的に生徒に身につけさせていきたい。

一方、当然のことだが一般試験で合格するためには教科ごとに記述力を育成し、二次力をつけることが大切である。そのためにも低学年時からの授業や課外、模試等のあり方を再検討していく必要がある。また、面接や小論文対策も三年間スパンで考えていく必要がある。

「受験科目」として得点を伸ばすだけではなく、生徒が自ら学習する興味・関心・意欲を引き出し育てることが最重要課題である。

■主な大学合格者数（現役生のみ）

卒業年度（平成）			29	28	27
国立大学	北見工業大学		1		
	北海道教育大学		2		1
	室蘭工業大学				1
	弘前大学				1
	岩手大学			1	
	東北大学				
	宮城教育大学		2	4	
	秋田大学		1		1
	山形大学	人文学部	1		1
		理学部	1	1	
		工学部	4	1	3
		地域教育文化学部			
		農学部	1	3	1
	福島大学	行政政策学類		1	1
		経済経営学類	3		1
		人間発達文化学類	1	2	9
		共生システム学類	1		
	茨城大学	人文科学部	1	2	
		教育学部	1	2	5
		理学部			2
		工学部	5	3	5
		農学部	1	1	
	筑波大学		1	1	1
	宇都宮大学			2	
	群馬大学		1	2	
	埼玉大学		2		
	千葉大学			1	
	新潟大学		2	2	1
	山梨大学		1		
	信州大学		1	1	2
	静岡大学				2
	広島大学			1	
	山口大学				1
	鹿児島大学			1	
公立大学	釧路公立大学				3
	青森県立保健大学			1	
	青森公立大学		1		
	岩手県立大学		1		1
	宮城大学			2	1
	秋田県立大学		1	4	1
	秋田公立美術大学			1	
	山形県立保健医療大学				1
	福島県立医科大学	医学部			
		看護学部	1	2	2
	会津大学		1	2	
	茨城県立医療大学			1	1
	群馬県立女子大学		1		
	高崎経済大学		4		4
	前橋工科大学		2		3
	千葉県立保健医療大学		1		
	首都大学東京		1		
	神奈川県立保健福祉大学		1		
	横浜市立大学		1		1
	新潟県立大学		1	2	1
	金沢美術工芸大学		1		
	都留文科大学		1		
	長野大学			1	
	公立鳥取環境大学			1	
	岡山県立大学				1
合計			53	49	59

卒業年度（平成）		29	28	27
私立大学	東北学院大学	1	7	14
	東北医科薬科大学	2	1	2
	東北福祉大学	8	6	16
	いわき明星大学	37	35	31
	茨城キリスト教大学	6	11	12
	国際医療福祉大学	10	10	14
	自治医科大学	2	2	
	白鴎大学	8	7	10
	女子栄養大学	1	2	2
	獨協大学	3	1	6
	文教大学	7	4	19
	神田外語大学	3	5	
	千葉工業大学	9	7	5
	青山学院大学		1	
	大妻女子大学	2		
	学習院大学	3		2
	北里大学	4	5	1
	共立女子大学	2	4	3
	國學院大学	1		1
	駒澤大学	4	3	15
	国士舘大学	2	3	2
	実践女子大学	2	3	4
	芝浦工業大学	2	2	6
	昭和女子大学	4	2	4
	成蹊大学	1	4	4
	成城大学	2	1	1
	専修大学	4	4	15
	大東文化大学	2	16	7
	拓殖大学	2	3	3
	津田塾大学		1	1
	中央大学		3	1
	帝京大学	4	4	9
	東海大学	6	5	17
	東京家政大学	6	3	1
	東京女子大学	1	1	1
	東京電機大学	1	1	1
	東京都市大学		2	2
	東京農業大学	2	4	2
	東京理科大学			1
	東京薬科大学	3	1	
	東洋大学	13	17	15
	日本大学	11	15	27
	日本体育大学	1	3	
	法政大学	1	4	5
	明治学院大学		1	3
	明治大学	2	3	7
	立教大学	1	2	2
	早稲田大学	1		
	神奈川大学	7	4	12
	新潟医療福祉大学	11	6	4
	その他の私立大学	142	157	172
私立大学合計		347	386	482

■国公立大学合格内訳

推薦入試	16
AO入試	0
前期試験	28
中期試験	1
後期試験	6
別日程	1
二次募集	0
追加合格	1
合計	53

■その他の大学（29年度のみ。短大・専修学校等は除く）

酪農学園大・東北工業大・東北文化学園大・宮城学院女子大・奥羽大・郡山女子大・東日本国際大・筑波学院大・つくば国際大・常磐大・流通経済大・獨協医科大・群馬パース大・高崎健康福祉大・浦和大・共栄大・埼玉工業大・十文字学園女子大・駿河台大・東都医療大・江戸川大・開智国際大・国際武道大・秀明大・淑徳大・城西国際大・聖徳大・千葉経済大・千葉商科大・中央学院大・明海大・麗澤大・跡見学園女子大・桜美林大・杏林大・国立音楽大・工学院大・駒沢女子大・聖心女子大・大正大・高千穂大・玉川大・帝京科学大・帝京平成大・東京経済大・東京工科大・東京工芸大・東京造形大・東邦大・二松學舎大・日本獣医生命科学大・日本女子体育大・文京学院大・武蔵野大・武蔵野美術大・明星大・目白大・和光大・神奈川工科大・関東学院大・鎌倉女子大・湘南工科大・女子美術大・鶴見大・桐蔭横浜大・フェリス女学院大・新潟食料農業大・松本大・京都外国語大・大手前大

平成二十九年度 卒業生の進路希望実現を振り返る

旧三学年　西山　晴之

二十九年度卒業生の進路状況は、国公立大学へは、卒業生二七七名中五三名（卒業生の一九%）が合格しました。（一年次の進路希望調査においては、約九〇%が国公立大学進学を希望）内訳は、公募推薦者に関しては三九名に対して一六名が合格し合格率は四一%でした。一般受験者に関しては八三名中三七名が合格し、合格率は四五%と高率になっております。

地元福島大学に経済経営学類三名、人間発達文化学類一名、共生システム学類一名の合格。山形大学は人文学部一名、理学部一名、工学部四名、農学部一名の合格。茨城大学では人文科学部一名、教育学部一名、工学部五名、農学部一名の合格となっていますが、推薦入試でうまくいかなかった生徒が、一般合格に向けて努力した結果、前期六名合格という実績を残しました。また、公立大学においては、福島県立医科大学看護学部一名、会津大学一名をはじめ、一五校に合格者を出しました。

国公立大学への進学を目指している生徒が、北海道、青森、岩手、新潟、金沢、山梨と受験範囲を広げ努力しました。私立大学へは、早稲田大学一名、明治大学一名、学習院大学三名と上位陣の健闘が見られました。最後まであきらめずに頑張った結果が、五三名の合格に結びついています。

学習の全ての基本は授業

進路実現のためには、センター試験（マーク試験）に対応できる学力、国公立大学二次試験（個別試験）や私立大学一般受験のための記述（論述）力が必要となり、より深い内容まで勉強していかなければなりません。高等学校における学習の全ての基本は授業にあります。授業で使う教科書の内容を理解することが大切です。

入学時の目標である国公立大学に合格した人たちは、基本である授業に真摯に取り組み、教科書の内容をしっかり理解した上で、記述・論述力を高める努力をしました。

明確な目標、具体的な計画立案と実践、そして検証

目標がなければ、具体的な勉強方法を立てることはできません。目標を定め、その目標達成の為に、具体的な勉強方法を決め、実際にそれを実行し、定期考査・模擬試験の結果で、立てた計画が甘いのか、あるいは厳しすぎるのか等の検証を繰り返しながら、毎日自分がこうやると決めた内容を、同じリズムで淡々と続けていた人が着実に伸びています。

勉強方法を確立していた人が目標を達成しました。

万遍なく学習する大切さ

科目が多くて国公立大学が無理と早々に決めつけ、私立大学に絞って学習した人たちが多くいましたが、その目標とする私立大学にも合格できないという現実がありました。また、国公立大学を希望していても、教科・科目を早い段階で絞り込み受験科目を早期に限定した人たちは、センター試験後の受験校を決定する段階で選択肢が限られ受験できない現実もありました。

受験科目だけの学習だけではなく、授業選択科目は最後までしっかり取り組むことが大切であり、受験教科・科目だけの学習に早い段階で絞らず、根気強く学習する習慣があれば、受験可能の機会も増えたと思います。

文武両道の実践

部活動を最後までやり切った生徒に多くの国公立合格者が出ました。これらの生徒は日々の授業を大切にすることはもちろんのこと、上手に勉強時間を確保したり、より集中して学習に取り組むなど自分の学習スタイルをしっかり確立していました。また、部活動を通して養われた体力や精神力、最後まで諦めない粘り強さが受験にも生かされることを証明してくれました。

諦めず継続することの大切さ

国公立大学と私立大学一般受験で合格した多くの人たちは、2月からの自宅学習期間に入ってからも、学校内で毎日遅くまで、教科担当の先生に納得いくまで質問したり、何度も何度も論文指導を受けたり、黙々と自学自習をしていました。

学年の掲示板に、以下の文章を掲示して、粘り強く学習に取り組ませました。

「粘り強くやろう。この世で粘り強さに代わるものはない。才能も粘り強さの代わりにはならないだろう。才能がありながらそれを活かせないなら同じことだ。天分も粘り強さの代わりにはならないだろう。天分はむくわれないことの言い訳のようなものだ。教育も粘り強さの代わりにはならないだろう。世界は教育をうけた落伍者に満ちている。粘り強さと決断こそが、絶対的な力を持つのだ。」

レイ・クロック

確かな学力を身に付ける

最後に、平成二十九年度の卒業生を三年間指導してきていえるのは、「進路実現のために大切なことは、確かな学力を身に付けること」です。推薦、一般入試を問わず、どんな進路に対しても必要なのは学力です。地道な努力を積み重ね、毎時間の授業内容を理解し、繰り返し復習を続けることによって身に付いた確かな学力、これこそが受験には必要といえるのです。しっかりと学力を身に付け、進路希望実現に向けて頑張って下さい。

新年度のスタートにあたって

進路指導主事　今村　義泰

成功のために努力することは当然ですが、「努力は必ず報われる」というわけではありません。どんなに頑張っても思うような結果が出ないことは多々あります。それでも、努力して来た人が最後に笑う確率は高いと信じています。今春の卒業生の最終進路決定日は、三月の最終週でした。どんなに結果が出なくても決して諦めることなく、明るく前向きに周囲への感謝の言葉を欠かさなかった姿に神様は微笑んでくれました。

さあ新たな一年が始まりました。戦う相手が全国区の大学受験に勝利するためには、自分の将来に向けての目的意識（信念）を持ち続けること、揺るぎのない基礎学力を身につけること、新しい入試制度に関する豊富な知識や情報を備えることが不可欠となります。進路指導部では新たな一年の始まりにあたって、次の点を重点目標に定め、生徒のみなさんの進路目標の実現に向けて取り組んでいきたいと考えております。

一　大学をはじめとする進路希望の実現に対応できる学力の育成

二　多様化する入試形態への対応

三　進路意識の高揚と定着

毎日の授業をベースに、課外授業や模擬試験・模試結果を受けての分析会、進路に関する講演会や大学見学会、大学の先生を招いての模擬授業や小論文講座など、全校生徒や各学年を対象にして、多くの行事や企画を実施します。「今、自分は何をするべきか」を常に考えて、人よりも先んじて行動すること、しっかりと自己管理を行うことを心がけ、心身ともに健康な状態で毎日の学校生活を過ごしてください。

創立百十四年の伝統を誇る地元の進学校として重要なことは、生徒一人ひとりが高い意識と誇りを持ち続けることだと考えます。目標を達成しようとする強い意志と、努力を惜しまない姿勢が常に必要です。おそらく一人ひとりの中には、中途半端に妥協したくない、自分自身の弱さに打ち勝ちたいという思いが備わっているはずです。実はそれこそが学校としての力の源なのです。伝統校の底力というのは多くの先輩方から引き継がれる様々な思いの結晶で、普段は目で見ることはできません。この見えない力をうまく引き継いで、自らの血肉にすることができるかどうかも既に能力の一部なのです。桜が丘生は素直で何事にも真面目に取り組みますが、限界を感じるとすぐに諦めるか、あるいは初めから限界を避けて通る人も少なくありません。人間は自己を知ることではじめて他者を知ることができます。今の自分にできることできないことを正しく見極めることが、社会の中で他者とともに生きていく基盤となるのです。

■三学年

まずは、自分の進路希望を一日でも早く具体化することです。保護者の方や担任の先生とよく話し合い、どの大学にどんな入試の方法で挑戦するか、早めに目標を定めるほど有利になります。模試の回数も倍増し、月に1～2回実施されます。ただ何となく受験するのではなく、毎回目標を設定し、模試の後はすぐに自己採点をして弱点補強に努めることで、次の模試の点数や自分の実力アップにつながります。また、結果に一喜一憂することなく、常にプラス思考でこの一年間を乗り切りましょう。なお、センター試験に備えて、マーク模試では正確に自己採点ができるように訓練をしておいてください。本番でのマークミスや段ずれなどの悲劇がよく報告されます。また、課外授業もすべて希望制となります。自分で自由に選択できるということは、同時に自分の受験に自らが責任を持つことになります。自分に自信を持つために、最後まで信じられる自分でいるために、大切なことは何でしょうか。

■一・二学年

「もっと早くから目標を定めて、しっかり勉強しておけばよかった」と、毎年のように嘆いている先輩がいます。目標を早い時期に決めて、迷うことなく邁進すれば、第一志望の大学に合格できる確率はグッと上がるはずです。なにも特別なことをする必要はありません。毎日の授業をしっかりと受け、与えられた課題を着実にこなし、課外授業を大事にする。そして、定期考査や模擬試験に臨むだけです。あとは、受験勉強を乗り越えるだけの気力と体力を毎日の学校生活や部活動、学校行事などで培ってください。二年生は具体的な進路希望の確立を、一年生は規則正しい生活習慣の確立を一日も早く実現できるように、充実した学校生活を送ることを期待しています。